

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070200854
法人名	医療法人 若愛会
事業所名	グループホームけやきの杜 1Fユニット
所在地	福岡県北九州市若松区西小石町17-27
自己評価作成日	平成29年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成29年10月18日	評価結果確定日	平成29年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症対応型サービスの意義を念頭に、認知症高齢者の生活を支える為に必要なことは何かを考えサービス提供を行っている。専門的な知識だけではなく、人として大切なものを身に付けられるよう、研修や話し合いを通し学んでいる。情報の共有や業務の簡素化の為に、電子カルテの活用は続けている。職員指導について、御利用者の重度化もあり、怪我をせず安全に過ごせるよう、介護技術の向上にも努めている。設備についても、リクライニング式の車椅子や特殊浴槽やリフト浴を各ユニットに配備するなど、介助量が増加した時でも対応できるようにしている。入居にあたっては、入居することで御家族や知人等、今までの関係が途切れないよう随時連絡を取り、必要な時は相談し、また施設行事への参加を促すなど、関係性を維持できるよう努めている。防災に関しては、スプリンクラーや緊急時の一斉通報システムもある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ホームは静かな住宅街にありながら、山や海などの自然も感じることができる。管理者や職員は、利用者一人ひとりがその人らしい生活をできるように寄り添いながら日々支援に取り組んでいる。法人全体での研修にも多く取り組んでおり、職員のスキルアップを図っている。センター方式を活用したアセスメントや、電子カルテによる情報の共有によって、全職員が全ての利用者の状態を把握することができ、状況に応じたより良いケアになるよう努めている。また、ホームは地域住民との交流の場となっており、ボランティアの受け入れや定期的な介護教室の開催なども行っている。地域に開かれたホームであり、利用者や家族だけでなく地域住民にとってもなくてはならないホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目の付く所に掲示おり、サービスの提供にあたり実践できるよう心がけている。また職員間でも理念に基づいた対応が出来る様、声を掛け合い取り組んでいる。	ホームの理念は、開設当初に管理者や職員が一緒に考えて作ったもので、目につくところに掲示されている。利用者、家族の気持ちに寄り添い、安心して過ごせる環境を整えるなど、日々理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアや園児・学生等の地域住民との交流が行えている。創作活動等は特に興味のある利用者様は、実施を楽しみにされている発言が聞かれている。	地域の文化祭や小学校の運動会に利用者と共に出かけたり、ホームで2カ月に1回介護教室を開催したり、ボランティアや園児の来訪を受け入れたりしている。また、町内会にも加入しており、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や介護教室、ご利用者家族等へ認知症の人へ正しい理解をして頂けるよう、対応方等の情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議で取り組みや状況報告を行っている。会議で挙げた意見や質問に対して返答していき納得されている。サービスの向上に努めている。	地域包括支援センター、民生委員、近隣住民、家族代表、利用者、職員が参加し、2カ月に1回開催している。ホームの現状やヒヤリハットなどの報告を行っている。	今後、ホームの利用者の重度化が予測されるので、緊急時の対応などについて地域の方や関係者で共有をさらに図るなど、毎回議題が同じになりがちな会議をより一層活用することに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市開催の研修等に参加している。また、広報紙等を配布し、活動内容等を伝えながら、連絡・協力を依頼している。	若松区事業所連絡会への参加や、市が開催する研修に参加している。また、市から講師を招き、内部研修を行っている。必要に応じ報告、相談などしており、協力関係を築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度、身体拘束について話し合う会議の場を設けており、身体拘束廃止に努めている。また、生命の危険性がある場合は、ご家族様と会議の場で話し合いのもと、身体拘束の同意を頂いている。	玄関の鍵は日中かけておらず、開放感がある。リスク委員会を設け、月に1回身体拘束について勉強会を行っている。生命の危険性がある場合のみ、家族の同意を得て、移動時や就寝時にやむを得ず短時間の拘束を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度、話し合う会議の場を設けており、虐待防止に努めている。また、勉強会も開催しており理解を深めている。2人介助や統一した対応方法を挙げていくことによって、技術や知識で差がでないよう取り組んでいる。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で制度について学ぶ機会があり、必要時には活かせるようにしている。現在、1名成年後見人制度を利用している利用者がおられる。	年に1回、権利擁護に関する内部研修を行っている。また、外部研修にも機会があるごとに参加している。利用者の中に成年後見制度を利用している方がおり、勉強の機会はあるが、職員の認識に差がある。	制度についてのパンフレットは事務所に置かれており、職員は見ることができ、外部からの来訪者にも見える所に設置し、より多くの方に周知されることに期待したい。また、職員の研修を積み重ね、制度の理解をさらに深めることに期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、説明・同意を頂く際は、重要事項説明書を用いて、内容をご理解いただけるよう対応し、納得して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪や、電話にて話す際に、ご意見や要望など伺うようにしている。年に1度はケアカンファを開催し、ご家族と共にご利用者のサービス内容について報告・納得して頂ける様にしている。	利用者、家族の意見や要望は、意見箱を設置して募集しているがほとんど投稿がないため、家族の来訪時やケアカンファレンスの際に聴き取り、管理者や職員間で話し合って運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、定例会や主任会議等の各委員会・会議等で職員に対して意見や提案を聞く場を設けている。	管理者は職員の個人面談を年に2回行い、意見や要望、提案などを聞いている。手当額を見直したり、体の負担を軽減するために腰痛予防ベルトを支給するなど、聞き取った意見などを反映させ、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、面談や会議等から挙げた意見を踏まえて、物品を購入するなど職場の環境整備に努めている。また努力や実績などを踏まえて給与に反映させている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	管理者は性別や年齢を理由に対象から排除しないようにしている。幅広い年代層が働いている。	幅広い年齢層の職員がおり、70代の職員も生き活きと働いている。職員の特技を余暇活動などに活かしており、個々の能力を發揮してもらっている。スキルアップのための研修などにも積極的に参加できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、勉強会や研修等の場を設けて職員に対する指導を行っている。	人権に関するマニュアルを元に、年に1回研修を行っている。職員会議で、実際の業務中の利用者に対する態度や声かけなどについて検討し、人権に対する活動に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、施設内勉強会・外部研修へ行く機会を設けている。また新人職員にはプリセクターを設けて、指導するようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や委員会等を通してサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様との信頼関係を築き、困っている事や要望等を理解した上で、サービス内容を検討し取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より情報収集を行い、事前にカンファレンスを行い、ご家族様が困っている事や要望等を理解した上で、サービス内容を検討し取り組んでいる。相互の信頼関係構築に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を最優先すべきが考えながら、同一グループと連携を図りながらサービス内容を検討・実施している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との関わりの中で、同じ目線になって考えるようにしている。ご本人の好まれるものや、不満に思うこと等を、関係性を構築し引き出すよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と関わる際には、意向に沿って対応している。また、毎月写真と文章を載せた手紙文と経過記録にてバイタルサインの測定値をお渡しし、身体面・精神面の状況をお伝えしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問や馴染みの物の持込等をして頂き、安心してホームで暮らせるよう支援している。	ホーム利用前から近隣で暮らしていた方が多いため、友人がホームを訪ねてきたり、散歩やドライブなどの外出支援の際に自宅まで行ったりしている。また、電話でも馴染みの人と話ができるように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握しながら、トラブルが起きにくいように、配慮している。利用者同士で関わり合いを持ちながら暮らせるよう、職員が間に入り、支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の意向に合わせて対応している。運営推進会議にも参加されており、意見を頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の意向に沿って対応しているが、言えない方に関しては、以前の暮らしやご家族から情報収集し、検討している。	センター方式を取り入れたアセスメントを行い、思いや意向を把握している。また、必要に応じて自宅訪問をし、生活歴や家族からの情報を確認するなど、利用者本位の暮らしを支援できるよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に生活歴を記入して頂いたり、担当ケアマネやご本人様から情報を収集して生活環境等に活かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、モニタリングを行いサービス実施についての評価をおこない、一人ひとりの状況を把握して、個別に適切なケアが行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア内容を検討し、ケアカンファを行うことにより、本人・家族・関係者と話し合い、意向に沿った介護計画を作成している。	介護計画作成やモニタリングには、利用者の担当職員の意見も反映させている。また、サービス担当者会議には家族にも必ず出席してもらい、意見交換を行って介護計画を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残して、情報を共有し、対応の見直し・再検討を行っている。また介護計画の見直しの際に役立っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて、サービス内容を再検討、必要に応じて変更し対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設しているデイサービスの利用者が入居される方がおり、顔見知りの関係が出来ている職員等がいるため安心して生活している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時にご家族に連絡し、希望の医療機関を受診して頂いたり、受診している。	月に2回、協力医の訪問診療があり、利用者、家族は安心して暮らせる環境である。また、ホーム利用前からのかかりつけ医にも訪問してもらったり、他科受診支援など、適切な医療を受けられるよう、家族と協力しながら支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師のため、何か異常等に気付いたら看護師に相談し、適切な対応が行えるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、病院のSWやご家族等の関係部署に連絡、情報を取り、出来るだけ早期に退院出来るよう努めている。退院後の経過観察についても確認し連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方などは、ケアカンファレンスの時や、必要に応じて来訪して頂き、本人・御家族・医療機関等と話し合いながらチームで支援している。	重度化や看取りの方針などは家族と話し合い、同意書を交わしている。職員は研修を重ねており、実際の看取り介護の経験もある。かかりつけ医などとの医療連携も取れている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で緊急時の対応を学んでおり、マニュアルを作成している。また避難訓練等の訓練も行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や勉強会にて災害時の対応を学び全職員が避難できるよう対応している。	年に2回、夜間想定も含めた避難訓練を行っている。消防署からも訓練に参加してもらい、助言をいただいている。また、備蓄品も備えている。	管理者、職員、消防署職員などの連携は取れているが、近隣の住民や地域の方からの支援があるとより安心につながるので、運営推進会議などを活用して災害時の協力体制を築くことに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけを行う際や介助時は、誇りやプライバシー保護に努めて対応している。	一人ひとりの意向などを受け入れ、声かけや支援に努めている。利用者のこれまで生きてきた歴史に寄り添い、誇りを重んじるケアに取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からご本人に意思決定出来るよう意見や希望を伺うようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた支援・希望に沿った支援を心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに合わせた支援を心掛け、声をかけながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な物は、好む味付け等に変更したり、刻みやミキサー食に変えて、美味しく食べて頂けるように配慮している。	静かな環境の中で、ゆっくり食事を楽しむことができている。職員は必要に応じ、さりげなく声をかけたり介助を行っている。おやつ作りを利用者と一緒に行ったり、行事の際は職員も一緒に食事している。	行事の際だけでなく、毎回利用者と職員が共に食卓を囲めるよう交代制などの工夫をし、コミュニケーションを取りながら同じものを楽しく食べれるようになることに期待したい。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を1日を通じて把握しながら、水分が進まない方に対しては、時間を空けて提供したり、好むもので水分補給して頂けるようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	緑茶でうがいしたり、口腔スポンジを使用する等、各々に合わせた対応を行っている。また必要に応じて歯科医より口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄を促せるよう、排泄パターンを把握して誘導している。	排泄チェック表で利用者それぞれのパターンを把握し、トイレ誘導している。リハビリパンツを使用していた方がさりげない声かけなどで、トイレでの排泄ができるようになるなど、排泄の自立に向けた支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や腹部マッサージ、運動などを勧めて個々に応じた予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、声掛け・誘導を行っている。	利用者の入浴したいタイミングに合わせて、個々に対応している。毎日の入浴を拒否される方も、週3回は入浴できるように声かけをしている。状況に応じて清拭も行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や就寝時間を、個々に合わせて対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用や服薬方法など理解して対応している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かし、家事手伝いや絵手紙教室・フラワーアレンジメントなどのボランティアの参加へ促している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ピクニックやドライブ等、ご本人様の好みを把握し、戸外に出かけられるように支援している。また、行事等のご家族の参加を促し、可能な際は参加していただいている。	ドライブや買い物など、利用者の状態に合わせた外出支援をしている。また、室内で過ごしがちな方は、ホームのテラスでの外気浴などで気分転換ができるよう図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る利用者に関してはお金を所持しておられる。所持が難しい方でも、ケーキ等のお菓子を買に出かける機会を設けている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等に電話をしたいと希望があれば、電話を掛けていただくよう対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快にならないよう、換気、遮光カーテン、フィルムを貼っていたり、空調の管理等を行っている。	すっきりした玄関を通ると各階の特徴を表した室内となっている。天窓から自然の光が射し込み、大きな窓からは街並みが見渡せ、ゆっくりできる環境となっている。	ホームの玄関はすっきりとしているが、もう少しわかりやすく、また、家庭的な雰囲気があると外部の方がさらに訪ねやすくなるので、季節のものを飾るなどの工夫に期待したい。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で会話が弾むような環境の配慮や、レクリエーションを行い、交流が深められるような関わりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の空間には、自分で活けられたフラワーアレンジメントや小物などの飾り、馴染みのタンスやテレビ等を持ち込んで頂き、居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	利用者が愛用していた小物や仏壇などが置かれており、本人が居心地よく過ごせる環境が整えられている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントを行うことにより「できること」や「わかること」を分かるようにしている。環境整備を行い、安全に自立した生活が送れるよう支援している。		